

受付番号

15

承認番号

大歯医倫 第110893号

研究課題名

コア用コンポジットレジンと抜去歯との接着強さに低温大気圧プラズマ処理が与える影響

研究責任者

田中 昌博

申請者

吉江 啓

研究終了日

平成29年3月31日

所属

有歯補綴咬合学講座

所属

歯学研究科 有歯補綴咬合学専攻

職名

主任教授

職名

大学院1年生

申請の概要

支台築造時、ポストを有する鑄造体を使用する場合の問題として、歯根破折が誘発される危険性が指摘されている。また、セラミック修復による歯冠補綴では鑄造体の金属色が反映されることで生じる審美障害が報告されている。このような金属製材料を用いた支台築造時に生じる問題を解決するため、コア用コンポジットレジンを用いた支台築造システムが臨床応用されている。一方、低温大気圧プラズマは、物理的衝撃を加えずに表層の汚染物質の除去が可能であり、歯冠修復材料などに対する有効性が数多く報告されている表面処理方法である。われわれも、これまで、ジルコニア、ハイブリッドレジンブロックなど歯冠修復材料の接着強さに対する、低温大気圧プラズマ処理の有効性について明らかにしてきた。

本研究では、抜去歯の根管内に低温大気圧プラズマ処理を施したときの、コア用コンポジットレジンと根管との接着強さについて検討する。